

春はあけぼの やうやう白くなりゆく山際

少し明かりて 紫だちたる雲の細くたなびきたる

春の訪れを、夜明けに見出した古人（いにしえびと）の豊かな感性に感心するとともに、四季のある国に生まれた喜びを感じます。

春の兆しを感じられるようになった今日のこの佳き日に、山梨県議会議員卯月政人様、大月市長小林信保様をはじめ、多くのご来賓の皆様、また大勢の保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに、令和二年度 山梨県立都留高等学校 第七十一回 卒業証書授与式 が挙行できますことを、厚くお礼申し上げます。

保護者の皆様には、長い間、本校の学校運営にご理解をいただき、ご協力を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。 また、こうして卒業という慶びの日を迎えられましたことは、感慨も一人のこととご推察申しあげます。

さて、ただ今、本校普通科の全課程を修了した二百七名に卒業証書を手渡しました。皆さん卒業おめでとございます。本日、この卒業式に臨み、今、皆さんの頭の中はあふれ出てくる高校時代の思い出で一杯だと思いますが、私が昨年七月、夏休み前の全校集会で、「コペルニクスの転回」の話をしたことを覚えているでしょうか？

「コペルニクスの転回」とは、太陽が動いているとする天動説を覆し、地球が動いているとする地動説を唱えたポーランドの天文学者コペルニクスの業績にちなんで、ドイツの哲学者カントが「物事の

見方が一八〇度変わってしまうこと」を比喩した言葉でした。

同時に、こんなこともしました。【ジェスチャー】「右回りさせている人差し指を下げて上からのぞくと・・・」（右回りしているものを、裏から見ると左回りに見える）

同じものや現象も、見る角度を変えると今まで気づかなかったものが見えてくる、あるいは全く違った世界が見える。こんな内容でした。まさか、そのわずか半年後、世界にこのように大きな変化が訪れるとは、本当に驚きの一言です。

～ 田植えを待つ富士 ～ 2000.5
この写真どこか変です。わかりますか？
ヒント：見る方向を・・・！



新型コロナウイルス感染症拡大という歴史的非常事態により、我々の生活は大きく変わりました。社会や人々の価値観も変わりました。まさにコペルニクスの転回が起りました。この大きな変化に不安や戸惑い、息苦しさを感じるのは当然だと思います。しかし、一方で、新たな発見もありました。密を避けることを求められたが故に、「人と直接顔をあわせ、その場の状況を理解し、相手の表情を見て会話する」、社会性動物である人間として、当たり前とも言えるこれらの行動が、どれほど価値のあることなのか思い知らされました。さらに、家族・友達・学校・地域というコミュニティの大切さも再確認することができました。

高校時代という人生の大きな分岐点で、大変辛い時間を経験しました。しかし、この経験を乗り切ること含め、日々の学習や部活動など、都留高校で培った逞しい力や柔軟な感性は、皆さんの今後の人生を、必ずや豊かなものにしてくれると信じています。

「皆さんの大切な卒業式が、新型コロナウイルスの影響で異例の形での実施となってしまいました。が、人類の歴史を振り返ると、らい病・ペスト・スペイン風邪・インフルエンザ・エイズなどなど、数え上げられないくらい、新しい病気との戦いの連続でした。しかし、人類は、その全てを克服し、現在に至っています。」

これは、昨年度の卒業式の式辞において、皆さんの先輩に伝えた言葉です。よもや、二年続けてこのような異例の卒業式となるとは予想だにしていませんでした。

しかし、今年は少し違います。この式の様子はカメラで撮影されており、後輩たちはそれぞれの教室において、モニターを通してリアルタイムで皆さんの晴れの旅立ちを祝福しています。伝統ある都留高校において、時間と空間を共にした同窓生として、ぜひ、心を一つにして欲しいと思います。

明けない夜はありません。国内でもワクチンの接種が始まりました。清少納言が春の象徴として愛でた、柔らかな「あけぼの」の景色は、もうそこまで来ています。

人類はこのウイルスとの戦いに必ず勝利します。そして、新たな社会での主人公は、十八歳で成人と認められた君たちです。この卒業式をギリシャ語の「時」つまり「カイロス」と捉え、新しい安心・平和な社会を自らの手で創っていく決意の機会とすることをお願いし、式辞の結びとします。

令和三年三月一日

山梨県立都留高等学校

校長 渡邊信介